

POLE

北海道ポーランド文化協会会誌「ポーレ」
第11号 1990, 5, 11

発行

北海道ポーランド文化協会

〒060 札幌市中央区北2西2

道特会館 NDA画廊内

電話 011-221-8672

リレー随筆

二十六年前のこと

富山 信夫

四半世紀前のことである。昭和十九年の春から初夏にかけて、ポーランドへ出張の機会を得た。農業国としてのポーランドは、戦前から、砂糖の原料となるビートの生産が多く、当時北海道でもポーランドから種子を輸入、栽培していた。もっと良い品種をとということで、取引先の農産物輸出入公社 (CORIMEX) の世話で、ワルシャワの農林省種苗局や砂糖工業研究所、クトノ、クオダバヤクラクフのビート育種場、ビドゴシチの農業試験場などで仕事をしてきた。

当時のことを思い出すまま一何しろ二十六年も前のことである。

富山ゆくえ不明

日航北回り便で羽田発、コペンハーゲンでポーランド航空 (LOT) に乗り換え、ワルシャワ着の予定であったが、コペン上空が視界不良のため、

急速ロンドン着陸に変更された。目的地まで責任をもって送るとのアナウンス。予定変更のことを相手に連絡したいと日航窓口申し出たが、ポーランドとは直接の連絡網がなく不可能とのこと。心細い思いでブリュッセル、パリ、東ベルリン経由でワルシャワ空港に到着できた。ところが、コペン発ワルシャワ行の LOT 便は予定通り運行し、それに富山が乗っていないということ、早速日本にテレックスが送られ、一時富山行方不明が伝えられたことを後で知った。

イクコ・エンドーを

知っているか

夜遅くホテルに到着。早速、外国人登録 (POTWIERDZENIE ZAMEL-DOWANIA CUDZOZIEMCA) の届出。翌朝 CORIMEX に電話。やっと迎えのスタジェンスキ氏と会うことができた。「ミス・イクコ・エンドーを知って

いるか」「ピアニストの遠藤郁子さんなら同じ北海道の出身だ」「貴殿は間違いなく日本からの客だ」と歓迎された。ショパンコンクールの遠藤郁子さんはポーランドでは大評判とのこと、今でも強く印象に残る嬉しい話題であった。このことを、二十五年経った一昨年、北海道ポーランド文化協会総会で遠藤郁子先生に御報告したところ、懐かしい話と大変喜んで頂くことができた。

人々との交わり

ポーランドでは、まだ日本人が珍しい時代で、色々な人に会い、沢山の人のお世話になった。直接御指導を賜わった育種の重鎮コラゴ博士・フィルトピッチ教授とともに物故——案内や説明役を受け持たれたスタジェンスキ氏・ルピンスカさん・バヴェウスカ博士・ラホスキ博士、日本人を初めて見たという取材カメラマンの娘で中学生のハンナさん。方向がわからなくなっている私を目的の銀行まで案内してくれた雑貨店のエバ嬢など本当に沢山の人がいることが思いだされる。

恩師北大農学部工芸作物教室の細川教授(当時)と米国留学が一緒に友人だったヤッセン博士にも色々とお世話と歓待を受けた。そして今、

ポズナン農科大学からグジェゴジェ氏が北大同教室に留学中で、ポーランドとの交流が拡がってきた。また、北海道ポーランド文化協会の活動など感慨一入のものがある、

ポーランドの人と国

ゴムルカ政権の最盛期であった。イースターの夜は丁度クラクフ滞在中で、街中荘厳な雰囲気につつまれ、うまく表現できないが、これこそ本当のポーランドの姿ではないかと強く感じたことを覚えている。

ある時、地図を前にして、ポーラ

ンドと日本のことに話題が發展し、国境に対する歴史的感覚・意識の違いをまざまざと知らされたことも覚えていいる。国境は単にあるものだという意識しなかった私に、彼いわく、国境は作られるもので動くもの、待てば必ず機会が来るものだ。二十六年経った今、我国では予想もできなかった北方領土問題が紙上を賑わすようになった。

ポーランドも今、歴史的大変革の真只中にある。ポーランドらしい知恵ある行動と解決を念じて止まない。

(北海道糖業株式会社勤務)

札幌に住み始めて

小見アノナ

日本への留学先が北海道と決まると、日本人の友人あるいは、北海道へ行ったことのあるポーランド人になんか所か聞いてみました。

するとどの人も、「北海道は寒いよ、でも食べ物はおいしいし、人も親切で、良いところだ。」あるいは、

「なんか、日本の中の外国のようだ」という人もいました。その外国のような北海道の人たちは私をどのよう

に感じ、接しているのだろうかと思

と思い込んでいたので、毛皮を着てまふらを巻いて千歳空港を出ました。すると、まだ温かかったので背広だけで歩いていいる日本人のびっくりした目と会いました。

ポーランドに興味

札幌に住みはじめてから、まず感じたことは、人たちは皆、外国人に興味を持ち、店や地下鉄の中などで、私がどこから来たのか質問をしてくれます。その人々の中で、ポーランドとポーランドを間違えたりする人もいれば、ポーランドに行ったことのある人や、ニュースなどでポーランドのことを良く知っている人もいます。それら偶然に街中で会った人たちの中には、今私に生花を覚えてくれていいる花の先生や、日本舞踊の先生、その他にも家にも招待してください。日本料理を食べさせてくれる人など、思いがけない出会いが、私の留学を一層楽しいものにしてきています。

そして私をもっと驚かせたことは、北海道には、ポーランドに興味を持っている人たちが大勢いるということです。大学ではポーランド語コースが設けられ、それには四十人もの人が学んでいるということ、そして北海道とポーランドを結ぶ架け橋で

ある北海道ポーランド文化協会があるということ。この協会がポーランドを北海道の人々が知る上でどれだけ貢献しているかということは皆さんの方が良くご存知だと思

います。日本で生活する上で、私はほとんど問題はありません。なぜなら、夫が日本人だからです。他の留學生の中には、自分の奥さんと子供を日本に連れて来ている人もいます。そして少しでも日本にとけこもうと努力しています。たとえば、子供を近くの幼稚園にかよわせたり、奥さんは、夫が日本に留学が決まると日本語を勉強し始めたり、なにかもゼロからの出発ですから彼らの生活は大変だろうと思っていました。しかし、彼らは全く文句を言わずに、友人も多くでき、日本の生活はとも楽し

いと言っています。やはりこれは北海道とポーランドの気候、風土、人の気持ちに似ているということが、ここに住むポーランド人たちが落ち着かせてくれるのだと、つくづく思

います。

(北海道大学文学部留學生。専攻は

日本史。原文のまま掲載)

ポーランドからの手紙

ポーランドから次のような交流申し込みの手紙が来ました。どのような返事をすればよいか目下検討中です。先方はたいへん熱心に我々との交流を望んでいるようですが、相当の経費がかかることでもあり、今のわが協会の財力では、簡単に先方の希望をかなえるというわけにも行きません。いっぽう、いつか近い将来にこちらからグループでポーランドを訪れて文化交流の実を挙げようとの声もあります。会員のみなさまは、どのようにお考えになりますか？御意見を事務局までお寄せください。なにはともあれ、受け取った英語の手紙を翻訳して紹介します。

(事務局)

北海道ポーランド文化協会 御中
一九八九年十二月二十日

ポーランド観光協会とポーランド日本協会は、ポーランドと日本の間の交流に関心をいだいており、訪問者交換するという下記のような提案をいたしますので、貴協会のお考えをお聴かせいただきたく存じます。

我々は、十人の日本人のグループを二、三週間のあいだ迎えてポーランドの家庭に民宿してもらい、食事やポーランド国内移動のお世話をするとともに、小遣いの用意をし、観光地への小旅行や文化行事を計画することが出来ます。ただし、ポーランドまでの航空運賃と諸保険は日本側で支払っていただくかなければなりません。このような内容で、一九九〇年の夏にでも日本人グループを迎えることが可能であります。その代わりとして、ポーランド人十人を同じ様な条件で招待していただくことを期待しています。このような交換招待の詳細を後ほど契約の形で確定できるように希望しています。なお、招待期間の伸縮、夫婦での参加、特別の希望など、どのようなことでもご希望に出来る限り応えたいと思っています。ただ、民宿に当たっては、日本からのお客様が英語で意志疎通可能であることが必要です。

我々と貴協会との間の上記のような協定は双方にとって有益なことに信じています。貴協会からのご返事、ご意見をお待ちしております。できれば早急に具体化に着手されることを希望しています。

われわれはあなたがたを、シヨバンとコベルニクスとワレサの国ポーランドへ、心からお招きします。

ポーランド日本協会オポレ支部
支部長 M. カルプ
ポーランド観光協会オポレ支店
支配人 M. J. バネク

楽しく学ぶ ポーランド語

本講習会も第四回目のシリーズに入ることになりました。今回は初級の中程度の水準の授業を行います。ポーランド語の入門を終えられた方の積極的な参加を期待します。

【期間】 一九九〇年五月二十二日(火)～七月二十四日(火)

(毎週一回、十週間)

【時間】 午後六時三十分から午後八時三十分までの二時間

【会場】 北海道クリスチャンセンター

(住所) 札幌市北区北七条西六丁目

(電話) 七三六―三三八八

【講師】 熊倉ハリナ先生

【内容】 初級の中程度の会話と文法

【授業料】 十回分で一万円

【申込先】 北海道ポーランド文化協会事務局

(住所) 札幌市中央区北二条西二丁目

(電話) 二二一―八六七二

※参加登録は第一回目の講習会の当日まで受付ます。
詳しくは灰谷(七〇二―四九三九)までお問い合わせください。

ポーランド・クロニクル

一九八九年二月一日～二月三日

△作成▽ 伊 東 孝 之

(北大スラブ研究センター)

(一九八九年二月二七日)

韓国と国交

一月一日

◆韓国と国交を樹立。韓国はポーランドに四億五〇〇〇万ドルの借款を提供する。

一月二日

◆東独のクレンツ新議長がワルシャワに到着、ヤルゼルスキ大統領、マゾヴェツキ首相、ラコフスキ統一労働者党第一書記と会談した。マゾヴェツキ首相との会談では「現実主義と共通の利益に基づく友好関係」が強調され、政治的变化を求める過程で対話と教会の役割が重要であるとされる点で意見が一致した。ヤルゼルスキ大統領は東独が「国際的な立場を強め、主権国家として発展することを支援する」と述べ、現在の国境問題で両国の立場が共通する点を強

調した。クレンツ議長は「ソ連、ポーランドの改革の経験に学ぶべきことがたくさんある」と述べてポーランド訪問を終えた。

一月三日

◆政府は統一労働者党をはじめとする政党や団体に対する補助金や免税措置を年内いっぱい打切ると発表した。ハル政党内閣調整担当相は「政党や各種団体は優遇制度によって力をつけるべきではない」と述べた。政府によると、統一労働者党には今年一三〇億ズロチの補助金が支払われ、同党系列の新聞・出版団体は五二〇億ズロチの税金が免除されている。

◆北朝鮮は韓国と国交を回復したポーランドを激しく非難する声明を発表した。

一月四日

◆ワシントンで行なわれた日米次官

級経済協議二日目の討議で、米国側はポーランド政府が西側政府に緊急支援策の一つとして要請している総額一〇億ドルの通過安定化基金に日本も資金を拠出するよう強く求めた。日本側は確答を避けたが、代表団筋は同日夕、「日本が出さないわけに

平均寿命

男六七才、女七五才

◆この日付けのジチェ・ヴァルシャヴィ (Zygie Warszawa) 紙によれば、男性の平均寿命は六七才、女性は七五・三才で伸びる傾向にある。しかし、日本に比べるとなお七才ほど低い。とくに働き盛りの男性の死亡率が高い。死因第一位は心臓病(五二%)、第二位はガン(二〇%)。結核患者もなお一二〇万人いる。乳児死亡率は一〇〇〇人に一六・一人。

の性格は「左翼の民主的政党」。マゾヴェツキ政府の与党なので、政府批判を避けつつ、かつ「連帯」との違いを明確にするところに新綱領の難しさがある。この日の中総で、党の戦後史を総括する特別委員会の設置が決まった。大会代議員は党員一五〇〇人に一人の割合で、支部ごとに直接選挙で選ぶ。従来、各地の党委員会が上から選任していたのを改める。

◆統一労働者党の中総が開かれ、来年一月開催予定の第一一回大会で採択予定の宣言、新綱領、規約案について討議した。大会前にもう一度中総を開いて文案を決定する。宣言、新綱領などの草案は明らかにされていないが、党スポークスマンのピステイガ氏によると、①プロレタリアート独裁、②民主集中制、③国際主義を外す。「党の指導的役割」規定の廃止はすでに決まっている。新党

ピステイガ氏は「党は大会前に分裂する可能性があるが、せめて大会までは団結を保つべきだ」と述べた。また、党の重要な柱の一つだった全国労組協議会(OPZZ)がむしろ従来の共産党の路線に近い形で独自の動きを見せている。反対に西欧型の社民党を目標とするグループの活動も活発となっている。こうしたなかで党中央の指導力は弱まっている、などと語った。

一月七日

◆来日中のマエフスキ外務次官はポーランド大使館で記者会見した。「韓国との国交樹立の二週間前に北朝鮮側に知らせたが、反応は穏当なものだった。自分のソウル訪問と同時にワルシャワの北朝鮮大使が交代

西独首相訪問

一月九日

◆コール西独首相が六日間の予定でポーランドを公式訪問する。西独首相の訪問は一九七〇年のプラント首相以来、実に一九年ぶり。経済問題では西独は今後三年間に約二五億マルク(約一九〇〇億円)の供与を認める方針。オドラ・ヌイセ(オーデル・ナイセ)国境問題は、一九七〇年の条約の関連規定が統一ドイツにまで及ぶかどうかが争点となる。ドイツ側は、①戦後の国境線を尊重するが、ポーランドと全ドイツとのあいだで平和条約が締結されない限り、最終的な宣言はできない、②ドイツ語の地名表記も認める、③戦死したドイツ兵の墓地を管理する、④ドイツ系少数民族の存在を認める、などを要求している。

◆統一労働者党は来年一月の大会で採択する綱領的宣言の草案を発表した。草案はまず、「社会主義建設の

したが、通常の交代で抗議の意図はない」と語る。ワレサ委員長が「東独の改革はあまりに急であり、危険だ」と西独紙に述べているが、という質問に対し、「改革は政治的現実を考慮しつつ行なわなければならないと思う」と語る。

ための旧来の方法は試練に耐えられ

なかった。統一労働者党にはもはや

強化の力もなく、社会の信頼を取り

戻す可能性も残っていない」と、み

ずから党の破産宣告を行なっている

ついで、「ポーランドの社会主義的

な思想の伝統と、現在の党にある改

革志向を抛り所に、新しい左翼政党

を設立するときに来た」と再出発の

必要を強調している。主な内容とし

ては、①プロレタリアート独裁の規

定を排除し、民主的な選挙を政治権

力の根源とする複数政党制、②集団

主義ではなく、個人の自由と権利の

尊重、③三権分立、④国有制度の大

幅見直し、民間セクターの重視、市

場原理に基づく経済、など。

◆九日午後ワルシャワに着いたばか

りのコール西独首相は、同日深夜、

東独が東から西への自由通行を認め

たことを歓迎、東独指導部と早急に

会談する用意があると表明し、訪問

を中断、一時帰国することを決めた。

「劇的な状況だ。どういう展開にな

るか、見通しがつかない」、「歴史

的な瞬間だ。世界史がいま書かれて

いる。統一がいずれ達成されること

は間違いないと思う」などと語った。

一月一〇日

◆朝日新聞夕刊によれば、コール西

独首相を迎えたポーランドは「国境

問題で変更がないとの保証があるな

らドイツ統一に反対しない」との態

度を示した。

一月一日

◆ブダペストではこの日、ハンガリ

ー、オーストリア、ユーゴスラビア、

イタリアの隣接四ヶ国が地域協力を

強める外相会議が開かれ、各外相が

会見に臨んだ。ハンガリーのホルン

土曜日にも働いて欲しい

◆マゾヴェツキ首相は独立記念日の

この日夕、テレビで炭鉱労働者に

「石炭が一三五〇万トン不足する。

土曜日にも働いてほしい」と呼びかけ

た。今年はじめの円卓会議で「連帯」

の主張を入れて炭鉱にも週休二日制

を取り入れた結果、産炭量が大幅に

落ち込んだ。首相は「連帯の友人た

ち」にも冬を前に土曜休み返上に協

力するよう求めた。

外相は「東独で起きている変化はい

ずれ東西ドイツの再統一を齎すと思

う。しかし、そのときにはワルシャ

ワ条約機構と北大西洋条約機構とが

ともに解消されていなければならない

い」と語った。ポーランドのスクビ

シェフスキ外相も「ドイツが二つに

分かれているのは不自然」と語った。

中立国オーストリアのモック外相は

「各国民に自決権がある」、非同盟

国ユーゴのロンチャル外相も「ドイ

ツ民族が一つであることには疑問の

余地がない」と述べ、将来の統一問

題でハンガリー外相と同じ見解を示

した。

◆西独コール首相はこの日午後五時

過ぎ再びワルシャワ入りした。

一月二日

◆コール西独首相はマゾヴェツキ首

相とともにヴロツワフの近くのクシ

ジョワの教会で行なわれるミサに参

列した。ミサには数千人のドイツ系

住民が参列した。

一月三日

◆ウルス・トラクター工場が二時

間の警告ストに入った。同工場の「

連帯」支部が一ヶ月前、トラクター

日本からの援助を

の価格統制をやめるよう「われわれの政府」に申し入れたが、回答がないのを不満としての抗議行動である。

◆ポーランドを訪問中のコール首相は「ドイツの分割は歴史と道理に反しているが、ドイツの未来をドイツ人だけで決めようとするのも歴史と道理に反している」と強調し、「欧州の心臓部に住むわれわれドイツ人は東西の近隣諸国がドイツの再統一問題に無関心でいられないことをよく知っている」と述べ、西独は「欧州の枠組みの中で」この問題の解決を目指すと言明した。

◆チュエテカ通信によると、モホリタ・チエコスロバキア社会主義青年同盟議長は「党指導部に自己満足の風潮が及びこっている。欠点や誤りを隠し、批判を受け付けない体質が党への信頼を失わせている」と現状批判の演説を行なった。同盟議長は東独、ハンガリー、ポーランドの党青年組織との「より密接な協力関係」を強調した。

◆EC議長国を務めるフランスは一八日にEC首脳をパリに招請し、東欧情勢に対処するための臨時サミットを開くことを決めた。

◆北米を訪問中のワレサ委員長はカナダのマルルーニー首相と会談したあとワシントン入りし、この日ブッシュ大統領から民間人として最高の栄誉とされる「自由のメダル」を受けた。

一月一四日

◆箱根で開かれていた四極通商会議に出席しているアンドリーセンEC委員会副委員長は、この日朝、松永通産相と会見し、EC委は二億ECU(三二〇億円)の第二次食糧援助を行なう予定だ、と語った。日本にも通過安定化基金への協力を求めた。

◆一二月一三日前後にブリュッセルでポーランド、ハンガリーに対する援助国の閣僚級会合が開かれる見通しである。日本は外相が出席するか現在検討中である。

◆訪米中の宮沢元副総理と会談したブッシュ米大統領は「海部首相が年明けに東欧を訪問するとの報道を読んだ」と前置きし、「ポーランドをはじめとする諸国に対し、日本からも援助を行なって貰いたい。日本側はそのつもりだと思うが、そういう立場で訪問することは日米間の連携の上でもいいことだ」と述べた。

◆米上院は向こう三年間で総額七億三八〇〇万ドル(ポーランド分六億五七〇〇万ドル、ハンガリー分として八〇〇〇万ドル)にのぼる対ポーランド、ハンガリー援助法案を全会一致で可決した。下院はすでに八億二〇〇万ドルの援助法案を可決済み

で、今後両院協議会に諮られたのちに修正される。

◆コール西独首相はアウシュグイッ強制収容所跡を訪問したあと、マゾヴェツキ首相と最後の会談を行ない、共同宣言に署名して帰国の途について。宣言は「一つの欧州を目指す」とし、「全欧州の現在の国境、領土、各国の主権を尊重することが平和の基本的条件だ」と述べている。これは将来にわたってオドラ・ヌイセ(オーデル・ナイセ)国境の保障を求めたポーランド側の期待に必ずしも沿うものではなかったと見られる。

コール首相は今回の訪問で、若者の交流、環境保護、文化交流など一一の協定に調印した。「協力関係全体の基礎」としてとくに重視されたのが、経済・財政面での協力協定だ。西独側は二年間で三〇億マルクの政府保証を約束し、うち五億マルクはIMFを通じてポーランドの通過安定化基金に使われる。七五年に西独が供与した一〇億マルクの大規模融資についても一部の返済を免除、他の一部については現地通貨ズロチでも支払を認めるなど優遇措置をとった。西側がこれまでポーランドに示した経済援助計画の中では群を抜く規模

である。ただし、西独企業が政府保証を背景にどこまで対ポーランド投資に意欲を示すかは今後の問題である。

◆政府筋はポーランド、ハンガリーに対する経済援助について「総額で二億ドル以上になろう」と語った。東欧支援について政府は西側諸国と歩調を合わせ、①緊急食糧援助、②マネー・ジメメント協力、③環境保護協力を加え、④経済安定基金への拠出を検討、大蔵省と外務省で折衝を行なっている。

一月一五日(水)

◆訪米中のワレサ「連帯」委員長は米議会に招かれて演説し、破産した東欧諸国のための新マーシャルプランを要請した。

ヤルタの

再来ではない

◆ブッシュ大統領はAFL-CIOの年次総会で演説し、来るべき首脳会談は「欧州の将来を決める性格のものではない」とヤルタの再来の危惧を否定した。大統領はその目的がソ連のベレストロイカ支援と東欧援助が主目的との立場を改めて示唆した。

一月一六日

◆訪米中のワレサ委員長はワシントンのナショナル・プレス・クラブで

演説し、一三日に到着して以来、ポ
ーランドなど東欧諸国に対する投資
を「一切に訴えてきたが、あまり効果
がなかった」と語り、ブッシュ大統
領ら米政府首脳が東欧援助で具体的
な構想を提示しなかったことを示唆
した。

◆ECは東欧諸国を対象とする国際
的な特殊金融機関設立の検討を始め
た。累積債務に悩むポーランドなど
に低金利長期の資金を供給し、経済
再建を助けるのが狙い。フランスが
中心となって提唱しているもので、
一八日にパリで開かれるECの非公
式首脳会談で提案され、合意が得ら
れば日本、米国なども参加を要請
されることになりそうだ。「東欧支
援銀行」構想は、西側先進国が資金
を出し合って新たな公的金融機関を
作り、政治改革を積極的に進めてい
る東欧諸国に新規資金を融資し、事
実上の繰り延べや輸出振興、西側と
の合併事業の推進などを図ろうとい
うもの。東独の場合はある程度の経
済力があるため、とくに大きな効果
があると見られる。ECはすでに附
属機関の欧州投資銀行(EIB)を
通じてポーランド、ハンガリーに融
資することを決めており、新機関に
は日本にもかなりの資金協力を求め
られることになりそうだ。

◆政府はポーランドの通貨安定基金
に対し、経済海外協力基金(OEC
F)などから一〇億ドル程度の低利

資金を拠出する方針を決めた。

◆松永通産大臣は、来日中のハンガ
リーのメッシュェシ副首相との会談に
おいて、来春ハンガリーとポーラン
ドに投資環境調査団を派遣し、投資
の促進方法について調査する方針を
説明した。さらに、通産相は「鈴木
自動車工業のハンガリー進出が決定
すれば、輸銀融資も実現するのでは
ないか」と答えた。

◆ダイハツ工業は来月はじめにポー
ランドに調査団を派遣する。団員は
ダイハツの生産技術関係者を中心に

海部首相の訪問決定

一月一七日

◆海部首相の欧州訪問日程が固まっ
た。それによれば、一月八日に出発、
西欧諸国を訪問したあと、ポーラン
ドとハンガリーの東欧二ヶ国を訪問、
一八日に帰国する。首相はアルシュ
・サミットの方針に従い、かなり大
きい規模のポーランド、ハンガリー
両国に対する経済再建援助プログラ
ムを打ち出す意向である。

一月一八日

◆パリでのEC首脳会談後、ミッテ
ラン仏大統領は東欧開発銀行の設立
を提案し、EC委員会などで具体化
について検討することが諒承された。
資金規模は一〇〇億ドル前後になる

三井物産、伊藤忠商事、住友商事の
実務担当者合わせて約一〇人。期間
は二週間程度を予定。ダイハツがポ
ーランドに調査団を派遣するのは昨
年七月に江口友敏会長が訪問して以
来一年半ぶり。

◆ブッシュ米大統領は、一月一〇
日、東独が国境を開いた際にゴルバ
チョフ議長が大統領に送った電報に
対し、「米政府はポーランド、ハン
ガリー、東独で改革が進むあいだ、
東欧が平穏で、平穏であるように望
む」と返電した。

と見られており、主な業務は西側企
業が東欧に投資する際の債務保証や、
東欧諸国への輸出信用供与などにな
ると見られている。しかし、サッチ
ャー英首相も日本の金融当局も慎重
な姿勢をとっている。ミッテラン大
統領はIMFを中心に協議している
ポーランド、ハンガリーへの経済改
革のための追加融資については八九
年末までに決定するよう求めた。ド
イツ再統一問題は議論されなかった。
コール西独首相は「今はこれまでの
どの時代よりもECという枠組みで
欧州統合が考えられており、これは
東欧での政治改革の前提でもある」
と語った。「ECから抜けてドイツ

の課題に取り組みべきだ、という考
えは東独をはじめポーランドやハン
ガリー、さらにはチェコスロバキア
で明日にも起こるだろう改革を裏切
ることになるばかりか、ソ連のペレ
ストロイカに対する裏切りでもある」
と述べ、否定した。

実勢レート

ドル六八〇〇ズロチ

◆ワルシャワでソ連のKGBの前身、
全ソ非常委員会(チェカ)の創設者
ジェルジンスキー(ポーランド出身)
の銅像の取り壊し式が行なわれ、約
二〇〇〇人の市民の拍手を浴びた。

一月二〇日

◆ズロチの対外公定レートが従来の
一ドル〇三三〇ズロチから同三四
〇〇ズロチとなった。切り下げは今
年一六回目、マゾヴェツキ首相が就
任してから六回目。支柱の実勢レ
トは一時のドル安傾向から落ち着き
を取り戻し、一ドル〇六八〇〇ズロ
チ前後と公式レートの二倍前後で推
移している。

一月二一日

◆政府は、二四日からブリュッセル
で開かれる東欧支援助多国間会議に向
けて、①ポーランドの通貨安定基金
向けに海外経済協力基金(本来、開
発途上国対象)から一億五〇〇〇万
ドルの借款を供与する、②東欧に環

境視察団を派遣する、③食糧援助として三〇〇万ドル、職業訓練など技術協力として三〇〇万ドルを検討する、などを決めた。

これについて、一月二四日付け讀賣新聞は、本来、開發途上国向けの基金を東欧諸国への「戦略援助」に使うてよいかという主張を載せている。東欧諸国はOECDの開發援助委員会(DAC)が開發途上国としているグループに入っていない。もちろん、経済的に困っている国があればその定義にこだわる必要はないが、問題はこうした援助を機会に

マゾヴェツキ初訪ソ

一月二二日

◆マゾヴェツキ首相は訪ソを前にしてタス通信と会見し、次のように語った。①国家レベルで新しい関係を作りたい。しかし、ポーランド側はすべての同盟条約を尊重し、ソ連との関係が重要な意味をもっていることを確認する。②自分は何らかの党派の代表として行くのではなく、国の代表として訪ソすることを強調、自分の訪問は「何らかの指示によつてではなく、選択の自由に基づいてすべてが行なわれることが必要であることを理解し合う重要な一歩になるだろう」と述べた。③「ソ連の一

ODAの汎用幅が拡大解釈されることである。東欧諸国は援助を緊急に必要としているアジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国と比較してとくに食糧や住宅問題で困窮しているわけではない。東欧援助は戦略的な性格を帯びており、アメリカはその一部を軍事費から支出している。

◆外務省はポーランドとハンガリーを支援する狙いから両国から三人ずつの経営実務者や技術者を招き、二九日から来月一五日にかけて東欧企業経営セミナーを開催すると発表した。

部にはポーランド情勢は安定するか、欧州や隣国にとって脅威を生むのではないかと疑念があるようだが、私の訪問でこのような疑念を払いのけたい。④「歴史の空白を埋めることが非常に重要だ。これは心理的な観点からも相互理解にとつては欠かせない。」

一月二三日

◆ECとEFTAのあいだで、共同の大経済圏「欧州経済空間(EES)」を作ろうという動きが急速に高まってきた。一月一九日に合同閣僚会議が開かれ、統一へ向けて本格的な交渉を始めることを確認する見込

みである。なお、ポーランドとハンガリーはEFTAに加盟を申請している。アンドリーセンEC副委員長はこのほど、欧州議会で「来年早々から本格交渉に入り、遅くとも一年以内には最終合意したい」と述べた。EESの設立については、一九八四年のルクセンブルグ宣言で基本合意しているが、八九年一月にドロール委員長が九二年のEC統合に合わせEESを発足させることを提案。EFTA側でも三月の首脳会談でドロール提案を受け入れることを決め、事務レベルで準備が進められてきた。交渉が順調に進めば、農業分野や労働者の自由移動など一部の例外を除いて九三年一月からECを中核とする欧州西側一九ヶ国の「単一市場」が生まれる。

◆当局は税関検査の強化と一定の工業製品、衣類、食料品購入の際の身分証明書提示の義務を決めた。またポーランドから西側へ出る旅行者については、列車の途中下車や車で決められた道路以外を通行することを禁止することも決めた。国境を開放して以来流出した物資や通貨は一八日までに三〇億東独マルクに達したとの推計がある。

◆海部首相は来年一月のポーランド訪問の際、ワレサ委員長と会談する方針を固めた。また、一月一三日にブリュッセルで開かれる東欧支援多国間援助閣僚会議に出席する中山

外相はネーメト・ハンガリー首相、スクビシェフスキ・ポーランド外相と会談する方向で外交折衝を開始した。

◆五〇年ぶりにワルシャワにバチカン大使、ヨゼフ・コヴァルチズウク大司教(五〇才)が普任した。ポーランドは今年七月にバチカンの外交関係を回復している。

◆リトアニア共和国は民族に違いにかかわらず共和国のすべての住民に政治、経済および社会的平等と自由を保障した少数民族法を採択した。少数民族の子弟に母国語で学ぶ可能性を保障、修学前の児童用施設や普通教育の学校を建てることを盛り込んでいる。また母国語でかかれた新聞、雑誌以外の情報も得られるようにする。さらに共和国民は民族の違いにかかわらず国家机关の勤務につけることも謳っている。ただし、ポーランド人が求めていた民族地区の創設権とポーランド語で教育する大学の新設は合理的でないと否決された。

◆国会は退職警官労働者の有志らで組織されていた民警(ORMO)約三〇万の解散を決議した。ハンガリーでも党大会ののち、「党の私兵」といわれていた労働者民兵約七万人が解散している。ポーランド国会はこの日、カトリック教会の監督していた宗務庁も廃止する法案を採択した。

POLE 第 11 号(1990.5.11) 目次

富山信夫「26 年前のこと」	1
小見アンナ「札幌に住み始めて」	2
ポーランドからの手紙、第 4 期「楽しく学ぶポーランド語」講習会(1990.5.22～7.24)のお知らせ	3
伊東孝之「ポーランド・クロニクル 1989.11.1～11.23」	4